はじめに

入試現代文、国公立大と私立大の両方、記述型と選択肢型の両方を含んだ極めて模範的で標準的な問題を通して学力を伸ばす講座です。この時期に取り組んで価値のある文章と設問を集めて編集しました。
なお、授業を最大限実りあるものにするために、予習をして自分の解答をつくってから視聴しましょう。

予習について

全講義予習しましょう。問題にアタックして解答をつくってから授業に参加してください。

復習について

間違えた部分について、同種の問題が本番でも出題されるというつもりで、見直してください。その後、スタディサプリのアーカイブの問題などにどんどんアタックしてください。

ノートの取り方

テキストへの書き込みが基本です。赤／青／緑の三色をご用意ください。文章の対比を色分けして塗っていきます。

解法の手順 ……文章（論説も小説も）は、すべて対比とその言い換えの連鎖からできている。そうであるならば……

少しでもはやく確実に読解するために

1　本文末の**書名＝タイトルを見る　→　テーマが判明する**ことが多い。さらには、「○○と○○」というようにいきなり**対比発見のてがかり**をくれることもある（現代文では、書名をつけることは多い。とくにセンター試験現代文では必ず記載されます！　論説では文章の終わりに、小説では冒頭に書かれるのが普通です）。

2　**設問の傍線部と問題文**をざっと読み、キーワードの見当をつける（**設問は本文のキーワードにかかわることが多い**）。ただし**選択肢まで読んではダメ**。たとえば、五択なら四つは誤りの選択肢なのだから、先に読むと歪んだ先入観ができてしまう。

（3　**論説では、本文最後の数行を先に**目を通し、テーマおよび結論、キーワードと対比の見当をつける。）

1と2で充分な見当がつけば、4に移行してOK

4　**本文を冒頭から読む**

プランA……設問の傍線部や空欄にあたるたびに、それらを含む段落を読んでから解答する。選択肢などは、その時点でしぼれるものはしぼる。ただし問いの約半数は全文を読みとおさないと解答できないから、読んでいる途中で判断できないものは先送りにする。

プランB……プランAだとぶつ切りで文章理解のリズムが壊れるとお感じの人は、全文通しで読んでから各問に取り掛かってもよいです。

記述式問題解答へのガイドライン

1　**字数指定の八割以上**書くことがのぞましい（「五十字以内で説明せよ」という設問なら四十字以上書く）なお、指定字数の半分（五割）に満たない場合は、採点の対象とならないことが多い（つまり0点）

2　記述解答の採点は、**原則的に加点制（ポイント制）**（キーワード・キーフレーズごとに得点を与える。つまり、余分なことを書いたとしても減点はされないのが普通だから、字数の許す限り、重要と思った語句を記入してやる）

3　**誤字・脱字・略字**はそれぞれ1点減点（とくに略字は印象悪いよ！）

4　**「理由はなにか」「なぜか」**などの問いかけに対しては、「〜から。」「〜ので。」「〜ため。」など理由を示す語でしめくくる。そうでないと、1点減点。逆に、理由を求めている設問ではないのに「から」「ので」「ため」でしめくくると減点だよ。

その他解答欄・解答用紙に関する諸注意

a

	人	間	は	…

→　※**「原稿用紙」ではなく「解答欄」**だから最初のマスを空ける必要はない

b

…	…	…	こ	と

→　**※句点なし！**（1点減点）

設問文に「句読点も字数にかぞえる」とある場合、文末には必ず句点（。）をつける・句読点をかぞえるという指摘がない場合でも、「説明終わり」の印として句点（。）をつけるのが原則

ただし、「抜き出せ」という設問の場合は、当然本文のまま（余分なものは付けない）

c

…	…	…	こ	と。

→　**※句読点は一文字分！**（1点減点）

より本質的な記述問題への解答の仕方〈答案に盛り込むべき要素〉

○具体例は原則としてカット。よりまとまった表現を解答に盛り込むべし！
○対比の表現（AではなくBである）！
○繰り返し、言い換えられている表現は大事。ただし一本化！

抜き出し問題の諸注意

……「語」「語句」「一文」などと表記されているものの範囲について

○「語」＝「一単語」・「ワン＝ワード」・「一品詞」（ただし「一文字」とは限らないからね！）
○「語句」＝複数の単語もありうる。「語」よりも広い概念。「部分」と表記されることもある。
○「一文（文）」＝句点（。）で区切られるまとまり。

語 ⇐ 心身
語句 ← 心身の一体性

（例）心身の一体性、すなわち、身体が真に身体としてあるとき、身体は「外部」的ではない。この考察は、「道具」を見直す契機になる。

⇒ 一文・文

誤りの選択肢の典型例一覧　〈誤りに名前をつけられるほどのパターンがある！〉

1　対比混乱の誤り　………本文中で**対比・区別**されていることばを同種のものとして扱ってしまっている誤り。あるいは、主役キーワードの説明を求めている設問で、敵役キーワードを挙げている誤り。**キーワードのグループ分け失敗**といってもいい。

2　同一性分断の誤り　………本文中で同種のことばを対比であるかのように扱ってしまっている誤り。これも**キーワードのグループ分け**失敗。**同質性分断**ともいう。

3　正しい対比喪失の誤り　………本文中で「**A↔B**」という対比で記述されているのに、無関係な「C」という要素を勝手にもちこんだり、「**C↔D**」といった本文にない対比をもちこんでいる誤り。例えば、本文は「**善↔悪**」という対比で書いているのに、「美」や「醜」という無関係な対比をもちこみ、本文の正しい対比を見失っている誤り。

4　不当な全称判断　………本文中の記述がないのに、「**すべての○○は**」「**あらゆる○○は**」と勝手に拡張している誤り。類似した誤りとして**不当な一般化**があります。例えば本文では「バラ」という個別のものに焦点を当てているのに、「花というものは」などと拡張している誤り。

5　不当な限定判断　………本文中の記述がないのに、「**○○のみ**」「**○○だけ**」と勝手に縮小してしまっている誤り。類似した誤りとして**不当な矮小化**（わいしょうか）があります。例えば本文では「人間関係全般」について書いてあるのに、「近所づきあい」の次元を書いている選択肢。話を不当にちっぽけにしているわけです。

6　不当な価値判断　（不当な当為（とうい）判断）……本文では「○○である」「○○だ」という事実判断をしているのに、「**○○であるべきだ**」「**○○にしなければならない**」「**○○する必要がある**」と勝手に改変してしまった誤り。またAとBの特徴の比較をしているだけなのに、**Aの方が優れているといった優劣を持ち込んだ**選択肢の誤り。特に論文を読んだり書いたりする上で、「事実判断と価値判断（当為判断）」との違いには気を使う必要があるんだよ。

7 **部分的指摘の誤り** ……本文中では、「**AともにB**」「**Aと同時にB**」「**AしかもB**」と追加表現がなされているのに、「A」だけ、あるいは「B」だけを扱ってしまっている誤り。本文の記述にまったく反しているわけではないため、「高度な」誤りといえます。こういうものに気づけるようになることが、現代文での高得点のカギだよ。

8 **記述に反する誤り** ……文字通り、本文中の記述に真っ向から反する選択肢。例えば本文では「AはBである」としているのに「AはBではない」としている誤り。

9 **記述なしの誤り** ……文字通り、本文中の記述にはいっさい書いてない内容を勝手にのせている選択肢。ただし、「本文の記述に反しているものを選びなさい」といった間違い探しの設問のとき、本文には書いてないだけで、間違いとはいえないということがあるから注意。つまり、「誤り」としては1〜8・10〜12のほうが深刻な誤りといえ、そちらを優先する。

10 **文脈喪失の誤り** ……文章中で特定の意味づけをして使っていることばを、**文脈外の「常識」や辞書的な意味**で扱ってしまっている誤り。例えば、「飛躍」ということばを、本文は「行き過ぎ」「誤解」という意味付けをして記述しているのに、勝手に「発展」「前進」というようにとらえてしまっているもの。

11 **物理的スリカエの誤り** ……**心理や気持ちを問うている設問で、物理的に説明している選択肢。**小説問題の選択肢としてよく出ます。例えば「暗い気持」を天候や日照量の説明にしてしまっている誤り。

12 **比喩を文字通りに解釈した誤り** ……本文中で、たとえになっている表現（擬人法もふくむ）を文字通りにとってしまった選択肢の誤り。比喩は立派な表現技法です。これをリアルに解釈するとずいぶんおかしなことになります。例えば「いやー、歩きつかれちゃって、膝(ひざ)がわらってるよ」なんて表現があるけど、ホントに笑ったら怖い！

13 **具体例は、一段、落ちる** ……具体例を挙げている選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっとまとまった語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

14 **比喩による説明は、一段、落ちる** ……たとえで説明している選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっと明示的な語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

目次

第一講〈小説〉記述型 …… 竹西寛子『蘭』 p.8
第二講〈論説〉選択肢型 音楽論・音楽社会論 …… 渡辺裕『歌う国民』 p.16
第三講〈論説〉記述型 言語論・日本語論・社会言語学 …… 浅川哲也『知らなかった！ 日本語の歴史』 p.24
第四講〈論説〉選択肢型 日本文化論 …… 土居健郎『表と裏』 p.32

第一講〈小説〉記述型　竹西寛子『蘭』

次の文章を読み、後の設問に答えなさい。

「どうしてそんな方向へ行くの？」

道順の違いをただす妻には答えないで、男は国道をどんどん逸れ、海と反対の方向へ車を走らせた。幾度か通った道であり、①今一度通る約束がありながら今日まで通れなかった道でもある。

水田が大きく左右にひらける中を、車の道だけはよく整えられていて、夫が勝手知った土地のように運転しているのが妻には不審であり、また不安でもあった。それにしても、帰りを急ぐ今日という日に、夫はいったい何を思い立ったというのだろう。

車は、ひとしきり水田地帯を走ってから、小さくこんもりした森と集落のある所に出たが、夫の答えを待っている妻を乗せたまま、また新たな水田地帯に入って行った。依然として遠くに山脈が続き、手前にいくつかの森があり、森がまた近づいては遠ざかって行く。

「ねえ、どこへ、どこへ行くの？」

女の声が荒くなっている。

男がやっと答えた。

「ちょっと廻り道をしてひとやすみしようかと思って」

陽は高くなっていたが、よく晴れていた空に、いつのまにか雲が動き出している。

車は間もなく水田地帯を抜けて、女には、丘を走っているのかと思われるような小高い段々畑の間を通り、やがて林道に入った。木立が鬱陶しくないほどによく繁り、車の行手に小鳥が飛び交っている。

「あら。向こうに見えるのは川？　それとも池なの？」

女の声が弾んだ。

林道のずっと奥に光るものがあって、みるみるうちにそれは湖だと女に知れた。

蝉の声が次第に多くなる。
「不思議ねえ。こんな場所に連れて来られるなんて、考えてもみなかったわ」
「もっとおどろくかもしれない」
妻は、片手で髪を撫でつけるようにしながら、夫は自分をねぎらってくれるつもりなのかもしれないと思った。妻の気持ちは上向いていた。
湖のほとりの叢に、男はワゴン車を停めた。②妻を促して車から下ろすと、自分は後れて外に出た。車の後部を確かめるようにして、妻よりも静かにドアを閉めた。
船着場に二艘の舟が乗り捨ててあるが、人影はない。女が先に立ち、男は後から水辺に立った。空が輝き、雲が輝き、水もまた輝いているように女には思われた。山肌が迫っているのに水面は暗くない。蝉しぐれで湖水が波立つかと思われるような静かさに、女はわが目を疑った。
「花が咲いてる。白い花が。あれは確かに花なんでしょう?」
湖が、入江のように彎曲しているあたりを女の指がさした。左手の岸辺の湿地に、白い小さな羽毛のような花が、惜しげもなく花弁を開いている。見る人もない湖のほとりで、霞むほどに咲き連なっている白い花の群落が、女にはあわれであった。「鷺草だよ。鷺が翅をひろげたように咲いているところからついた名前らしい」
③男は、自分がもう何日も空気というものに触れていなかったような気がした。女と並んで立ったまま、今度は自分で煙草に火をつけた。
湖を大きく庇っているような山脈が、男の疲れた眼には、二重にも三重にもうつって見えた。そして、そのほとりにひっそりと、清楚で優雅な鷺草の群落をもつ湖は、大地が両手で捧げる白い花飾りのついた器に、天が、恵みの水を注ぎ与えたもののようにながめられた。
「いい所だろう」
妻は素直にうなずいた。妻は、この何日かの間に、自分や夫が経験した辛く苦しかった出来事が、ここに来て信じ難く思われるほどで、前触れもなくこうした場所へ自分を運んでくれた夫に感謝せずにはいられなくなっていた。と同時に、男をいとおし

む情にも潤ってきた。ただ、④今はそうと相手に気取られたくなかったので、しきりに、花を愛でた。

男に心残りはあった。

遅過ぎた約束の果し方に無念の思いも改まっていたが、許されたい気持もあった。男は近くを見、遠くを見、そして空を仰いだ。

雲の動きが増して、風が出てきた。

蝉の声は絶えたが、風が止むと、その声は前よりもいっそう高くなって湧き出すように男には聞えた。

風が吹くたびに、風の足どりが、湖水に広く、狭く、また浅く深く刻まれる。大地の捧げた器の水は、時に軽やかにさざめき、時にやや重くざわめいた。

「行こう」

夫が先に立ち、妻が随った。

車に近づきながら、男は今一度振り返った時、ふと湖上に立つ老母のおもかげを見た。まだ病苦を知らぬ、甘えかかるような優しいおもかげだった。男はそのおもかげをわが身に封じ込めるように、そっと眼をふさいだ。

ワゴン車に乗り込む時、男は初めてカーテンの外側から話しかけた。

「また連れて来ますからね」

レースのカーテンに囲まれているのは、ドライアイスに埋まっている、男の老母の遺体だった。一年近い闘病の果てに、老母は昨夜、病院で亡くなっていた。

反対側のドアに廻った妻が、

「何か言いました?」

とたずねた。

⑤「別に」

と夫は答えた。

（竹西寛子『蘭　竹西寛子自選短篇集』集英社文庫）

問１　傍線部①「今一度通る約束がありながら今日まで通れなかった道」とあるが、通れなかった理由として二つのことが考えられる。本文の内容に即し、それぞれ十字以内（句読点を含む）で記しなさい。

問２　傍線部②「妻を促して車から下ろすと、自分は後れて外に出た」とあるのは、男が湖に来た本来の目的を妻に隠す行為とも受け取られる。これとは対照的な、目的を達成した後の男の思いを端的に示す表現を、本文中から十五字（句読点を含む）以内で抜き出して示しなさい。

問３　傍線部③「男は、自分がもう何日も空気というものに触れていなかったような気がした」とあるが、どうしてか、本文の内容に即し五十字以内（句読点を含む）で説明しなさい。

問４　傍線部④「今はそうと相手に気取られたくなかった」とあるのは、どうしてか、本文の内容に即し五十字以内（句読点を含む）で説明しなさい。

問５　傍線部⑤「『別に』と夫は答えた」とあるが、妻への回答をわざと外すことで、夫は妻に何を隠そうとしたのか、この湖に来た意図をふまえ、本文中の語句を用い五十字以内（句読点を含む）で説明しなさい。

第一講　知識モノ解説

文学史・筆者紹介

●筆者　竹西寛子＝たけにし　ひろこ（一九二九〜）広島県生まれ。早稲田大学教育学部国文科卒。出版社勤務を経て小説家。受賞歴として川端康成文学賞、毎日芸術賞、野間文芸賞などがある。文化功労者

語句

ただす＝質す→質問して確かめる
　同音異義語　正す＝まがったものを真っすぐにする／間違いを正しいものにする
　　　　　　　糺す＝真偽や有無がはっきりしないものを調べてはっきりさせる
逸れる＝それる→離れる。違った方向に行く
　cf免れる＝まぬかれる
勝手知る＝かってしる→いつもの事情や状況についてよくわかっている
不審＝ふしん→変だなと疑いをいだくこと（例）挙動不審
同音異義語　不信→信用しないこと（例）政治不信
　　　　　　不振→勢いがふるわないこと（例）食欲不振
ひとしきり＝一頻り→盛んな状態がしばらく続き、やがて終わること
鬱陶しい＝うっとうしい→邪魔なものを払いのけたいような気持ち
ねぎらう＝労う→苦労や努力を認めてそれにふさわしい言動でかえすこと

惜しげもなく＝おしげもなく→ひかえてとっておくということなく

清楚＝せいそ→飾りけなく美しい様子

優雅＝ゆうが→上品な様子

いとおしむ＝愛おしむ→愛する。大切だと思う

復習問題　第一講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）質問を幾ドも繰り返す　①土　②怒　③度　④戸　⑤努

（イ）路上で不シン者を発見する　①審　②振　③信　④身　⑤心

（ウ）天候はイ然として変わらない　①以　②依　③緯　④伊　⑤位

（エ）虚飾なくセイ楚な身なりだ　①整　②聖　③青　④清　⑤静

（オ）優ガな身のこなしを見せる　①雅　②蛾　③画　④賀　⑤駕

（カ）珍しい植物の群ラクに出会う　①洛　②酪　③落　④絡　⑤烙

（キ）丁寧にイ体を安置する　①偉　②遺　③維　④医　⑤畏

（ク）湖沼とシッ地の多い地方　①湿　②質　③執　④室　⑤疾

（ケ）長いトウ病生活を支える　①闘　②倒　③統　④糖　⑤棟

（コ）太陽がシ第に昇ってくる　①史　②至　③支　④仕　⑤次

第二講 〈論説〉選択肢型　音楽論・音楽社会論

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ここに一つの楽譜があります。一九一二（明治四五）年に創刊された『月刊楽譜』という雑誌に掲載されているもので、《夏季衛生唱歌》というタイトルがつけられています。タイトルもちょっと「？」という感じなのですが、歌詞をみるとその疑問符はさらに大きくなり、A<u>思わず笑い出してしまいそうになります</u>。一番は、

さみだれふりて空くらく　学びの窓はうちしめり
うめの実きばむ時はきぬ　かびのはえるはこの時ぞ

などと、ややおごそかに始まるのですが、最後に「かびのはえるは」というのが出てくるあたりからだんだんと、夏だからお腹をこわさないように気をつけましょうという話に変わってきて、歌詞が進むにつれて具体性が増してきます。

かにやいかたこえびいわし　あげものかひるゐ（貝類）ところてん
ささげにかぼちゃ、もち、だんご　いづれもこなれぬものなるぞ

という具合に消化の悪い食品名が並べられたかと思うと、

すべてのみくひしたものが　あとでわるいと気付いたら
ゆびをさし入れはきだして　あとをしほゆ（塩湯）でよくあらへ

などという実践的アドバイス（？）まで出てきて、全部で何と二〇番まで続きます。

こういうものが一流の音楽雑誌に堂々と掲載されているのを目にすると、われわれはつい、明治の終わり頃の日本の西洋音楽はやはりまだ未熟で幼稚だった、などと思ってしまいがちです。あるいは、これを作った人は何か心得違いをしていて、純粋な「芸術」であるはずの音楽を違った目的に使っていたかのように思うかもしれません。

しかし実は、当時の資料を調べれば調べるほど、この種のものは次々とみつかります。そうなってくると、こういうものを文化が未熟だったなどと片づけてしまうわけにはいかなくなってきます。実際、この時代の音楽文化はべつに未熟であったわけで

も幼稚であったわけでもありません。この時代にはこの時代の音楽観があり、今のわれわれのロジックとは違う原理にしたがって動いていたのであって、その論理にしたがうなら、こういうものはきわめてまともな音楽のあり方だったのです。それがあたかもおかしなものであるかのように思ってしまうとすればそれは、今われわれが自分たちのもっている固定観念を通してこの時代の音楽をみてしまっているための誤解にほかなりません。

　われわれは音楽というと、ほとんど反射的に「芸術」の一ジャンルだと考えてしまいます。われわれが《夏季衛生唱歌》を未熟なものだと思ってしまうときには無意識のうちにそういう前提が作用しており、どうみても「芸術性」の乏しい B「かにやいかたこ」などという歌詞をみると、「芸術」としては完成度の低いものだと思ってしまうわけです。

　しかし、音楽を美術や演劇などと並ぶ「芸術」のサブジャンルとして位置づけ、作曲家によって生み出された美的対象としての作品を純粋に鑑賞することこそ、その本来のあり方であるとするような思想は、実は典型的に西洋近代型のものの見方なのです。そういう見方に基づくならば、C《夏季衛生唱歌》式のものは、美的価値が乏しいものだということになりますし、唱歌を、たかがものの食べ方の教育に用いるなどということは、「芸術」の本来のあり方に反した邪道な振る舞いだということにもなるかもしれません。しかし、そういう風に考えるのは、西洋の芸術音楽の発想にどっぷりとつかってしまったわれわれの感覚にほかなりません。

　明治になって西洋文化との接触の中で成立した明治政府が、西洋音楽の導入をはかり「唱歌」なるものを編み出した経緯やそこでの状況をあらためて見直してみるならば、そこでの音楽が「芸術性」などとは何の関わりもない、国民国家形成の中での「国民づくり」のためのツールとして位置づけられていたことがわかってきて、一見 D浮き世離れした無垢な存在に思われていた唱歌が背負わされている政治性が明らかになってきます。そのことは、われわれが、音楽と言えばほとんど条件反射的に「芸術」というカテゴリーに押し込める習性を身につけてしまった結果、視野から消えてしまっていた、音楽が現実の政治や経済に直接に関わっていた局面を照らし出してくれることになるでしょう。

　しかし、それだけではありません。一見、浮き世を離れたところにあると思われる唱歌などの音楽も、実は近代的な国民国家形成のプログラムの中に組み込まれていたのだという話は、もちろん日本の近代の文化を考える上で重要なことではありますが、何でもこのような図式に押し込めば話が解決するというものでもありません。政府が何を目論（もくろ）んでいたとしても、いろいろな人々

がいろいろな立場から参与する現実の文化の展開の中では、E「想定外」のことが起こり、思いもしなかった方向に向かってゆくことだってあるでしょう。時代の変化の中で別の解釈を施されて、違った意味合いを与えられたり別のコンテクストで使われたりするようになることもあるでしょう。明治政府が考えたような「国民づくり」のビジョン自体は、もはや過去のものになってしまっているとしても、唱歌の孕（はら）んでいた様々な要素は、その後の変化の中で、F換骨奪胎（かんこつだったい）されながら、どっこいしぶとく生き延びています。文化というものは、継承と断絶とのはざまの、つながっているようないないような、微妙な空間をさまよいながら形作られてゆくものです。唱歌やその周辺にある「唱歌的なるもの」をめぐるそのような動きに注目しながら明治以後の文化のうつりゆきをもう一度捉（とら）え返してみたいのです。

（渡辺裕『歌う国民』中央公論新社。ただし、本文に一部省略がある。）

問１　傍線部Ａ「思わず笑い出してしまいそうになります」とあるが、なぜか。最も適切なものを一つ選びなさい。

1　唱歌に対し現代人が抱く一般的なイメージを裏切るような語句が歌詞に登場するから。
2　おごそかな歌い出しから軽快な曲調に変わっていく展開に現代人は慣れていないから。
3　歌詞の内容が家庭での食事に絞られていくので、学校という環境に似つかわしくないから。
4　児童や生徒が学校で習い覚える歌であるにもかかわらず、おごそかな響きで始まるから。

問２　傍線部Ｂ「『かにやいかたこ』などという歌詞をみると、『芸術』としては完成度の低いものだと思ってしまう」とあるが、なぜそう「思ってしまう」のか。最も適切なものを一つ選びなさい。

１　庶民の生活文化に属する「かにやいかたこ」は、一流の音楽雑誌に掲載されるにはふさわしくない表現であると考えられているから。

２　芸術は美を追求するものであり、「かにやいかたこ」という日常の食べ物は美とは無縁の世界に属するものと考えられているから。

３「かにやいかたこ」は日本固有の生活文化に根ざすものであり、西洋近代の文化を代表する音楽とは無縁であると考えられているから。

４「かにやいかたこ」はグロテスクなイメージを喚起するがゆえに、美を追求する唱歌の形式にはふさわしくないと考えられているから。

問３　傍線部Ｃ「《夏季衛生唱歌》式のもの」の説明として、最も適切なものを一つ選びなさい。

１　純粋芸術である唱歌の本筋を行くもの

２　純粋芸術とは異なる目的のために学校現場で生み出されたもの

３　純粋芸術でありつつ教育的意図を含むもの

４　純粋芸術をめざすのではなく、教育のために生み出されたもの

問4　傍線部D「浮き世離れした無垢な存在に思われていた唱歌が背負わされている政治性」とはどのようなものか。最も適切なものを一つ選びなさい。

1　かつて純粋な近代的芸術をめざして民間のイニシアティブで開発された唱歌が、その後次第に政府の政策に利用されるようになったこと。
2　子供たちの教育という純粋な目標を掲げて登場してきた唱歌が、美術や演劇など芸術のサブジャンルに位置づけられるようになったこと。
3　世俗の塵にまみれることのない、美しい音楽世界と思われることの多い唱歌が、かつては国民意識を育成する道具として開発されたこと。
4　芸術性と政治性とが不可分の関係にあった時代に、唱歌は美の追求と国民意識の育成とを同時に達成すべく開発されたものであったこと。

問5　傍線部E「『想定外』のことが起こり、思いもしなかった方向に向かってゆくことだってあるでしょう」とあるが、「思いもしなかった方向に向かってゆくこと」を具体的に表した例として適切でないものを一つ選びなさい。

1　戦前につくられた「校歌」には皇国史観の色合いを帯びた歌詞が登場したが、それらの多くは戦後になって問題となり、歌詞の一部を改変したり、問題のある部分は歌わなくしたりするなどの措置を経て、今に歌い継がれている。
2　「儀式唱歌」の代表ともいうべき「仰げば尊し」が近年復活の兆しを見せているが、この動きを支えているのは、もはや歌詞に歌われている「師の恩に報いる」感情ではなく、楽曲が回顧感情に強烈に訴えるところにある。
3　「地理唱歌」と呼ばれるものには、「鉄道唱歌」のように全国の駅名を覚えさせるものと、各県の地理の知識を身につけさせるものとがあるが、いずれも長大な歌詞をもち、国土に関する膨大な情報を送り続けている。
4　唱歌の変種にあたる「県歌」の中で抜群の人気を誇るものに長野県の「信濃の国」があるが、楽曲としての完成度の高さに加え、この曲が振り付けされ、踊られることによって広まったところに、人気の秘密が隠されている。

問6　傍線部F「換骨奪胎されながら」を言い換えたものとして、最も適切なものを一つ選びなさい。

1　表面は大きく変化しながらも、真髄にあたるものは保たれながら
2　褒め称えられていたものが、みくびられるようになりながら
3　後世の者の手が入り、当初の意図とは異なるものになりながら
4　困難に立ち向かうなかで、原形をとどめないほど変化しながら

問7　本文の内容と合致し**ない**ものを一つ選びなさい。

1　美とは無縁なものを歌詞の中に見いだすと、現代の私たちは作品の芸術的価値が低いと判断しがちであるが、それは私たちが音楽に対して抱く固定観念がそうさせている。
2　現代の私たちは芸術作品に接する際、それらの作品を美的対象と捉えるのに何の疑問も抱かないが、そうした態度は近代の始まりの時期に国策によって根付いたものである。
3　現代の私たちにとって唱歌はなじみ深いものではあるが、唱歌の捉え方は時代とともに大きく変化しており、それが生み出された時代背景さえも私たちの記憶には残っていない。
4　近代的な産物である唱歌の歴史を表面的に捉えるだけでなく、歴史の背景に見え隠れする微細な変化が現代の私たちにどう影響しているかを掘り起こすことは価値がある。

第二講　知識モノ解説

文学史・筆者紹介

●筆者　渡辺　裕＝わたなべ　ひろし（一九五三〜）千葉県生まれ。東京大学文学部美学芸術学専修過程卒。同大学院博士課程単位取得退学。東大教授。著書『聴衆の誕生―ポスト・モダン時代の音楽文化』は、サントリー学芸賞を受賞。「聴衆の『ポスト・モダン』？」はセンター試験でも出題された。本書『歌う国民』は芸術選奨文部科学大臣賞受賞

語句

心得違い＝こころえちがい↓勘違い。本人が正しいと思ってしたことが実はよいとは認められないということ

邪道＝じゃどう↓本来あるべき姿から外れたあり方。対義語は「正道（せいどう）」

経緯＝けいい↓いきさつ。事情や理由

無垢＝むく↓けがれなく純粋なこと

浮き世＝うきよ↓もともとは「憂き世」で思うままにならない辛いこの世のこと。一般的には現実のこの世のこと

復習問題　第二講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

		①	②	③	④	⑤
（ア）	楽フから作曲家の意図を探る	府	附	符	普	譜
（イ）	科学雑誌に論文が掲サイされる	再	才	載	裁	栽
（ウ）	この議論の展開には疑問フが付く	符	譜	負	附	歩
（エ）	表現が未熟で幼チだと指摘する	治	知	智	致	稚
（オ）	趣味で音楽カン賞に出かける	感	鑑	艦	勧	干
（カ）	事件のケイ緯を詳細に説明する	敬	系	経	係	警
（キ）	小学校からショウ歌が聞こえる	小	唱	逍	賞	称
（ク）	原曲をカン骨奪胎して編曲する	管	監	間	喚	換
（ケ）	音楽的な伝統を継ショウする	証	昇	召	承	証
（コ）	異文化とのセッ触から生まれる	設	説	接	節	摂

第三講〈論説〉記述型　言語論・日本語論・社会言語学

次の文章を読み、後の設問に答えなさい。

最近、若い人たちの間でさかんに使われている言葉の一つに「やばい」があります。若い人どうしの会話を聞いていると、「やばい！　やばい！」と連呼したり、「それってやばいよね～」とか、「それってやばくね？（平板調）」と相づち表現などに使われたりしています。もはや「やばい」を抜きに彼らの会話は成り立たないのではないかと思うくらいに「やばい」は若い年代の人たちの間で実に良く使われています。

しかし、私のような年代の人間の感覚では、若い人たちの「やばい」の使い方には二つの点で非常に違和感があります。一点目はそもそも「やばい」という言葉を会話でやたらに使いすぎること、二点目は「やばい」を「危険だ」という本来の意味以外に、①「ほめことば」やプラス評価を表す言葉として使っている点です。

平成一五年（二〇〇三年）、ＮＨＫの有名な女性アナウンサーが、ニュース番組のスポーツコーナーで、あるプロ野球の監督にインタビューをしているときに、「やばい」という言葉を口にしたところ、放送後に多くの批判がＮＨＫに寄せられたということがあります。ＮＨＫ側には、そのときには「やばい」の使用について実験的な意図があったようなのですが、少なくとも公共（公共放送）の場で「やばい」を使用することを社会が許容する状況にはまだなっていないようです。

そもそも、「やばい」とはどのような言葉なのでしょうか。「やばい」はもともと「隠語」でした。隠語とは「位相語」の一種です。

言葉の話し手・聞き手の違いや、場面の違いなどによって、言語表現が異なった姿をとりますが、このことを「言語の位相」といいます。位相の違いによって現れる語彙のことを「位相語」といいます。例を挙げれば、男女の性差による言葉の違い（「男ことば」「女ことば」）や、年齢差による言葉（「幼児語」など）などが位相語です。

職業の違いや社会的階級の差によって形成される位相語が「職業語」や「集団語」です。集団語は、その集団に属する人たちが集団で共有する秘密や仲間どうしの秘密を守るために、また仲間どうしの意思疎通を秘密裏に簡便に行うためのもので、その

集団独特の語彙すなわち「隠語」を形成していきます。

『隠語辞典』（楳垣実編、昭和三一年・一九五六年）によると、「やばい」は形容詞として「①危ない。危険な。②発覚のおそれがある。③逮捕されそうな。④おそろしい。⑤耐えがたい。⑥苦しい。⑦不可能な。」の意味があり、形容詞が名詞化した例として「①看守の巡視。②刑事。巡査。看守。」という意味が挙げられています。

『隠語大辞典』（木村義之・小出美河子編、平成一二年・二〇〇〇年）には、「やば」とは「刑事・巡査・探偵・看守」のこととあります。つまり、窃盗・強盗・賭博などの犯罪者たちの立場から見て警察官や看守に踏み込まれるような危険な状況が「やばい」のです。「やばい」という言葉は、元は犯罪者の集団の中で使われていた隠語なのです。

川端康成の小説『浅草紅団』（昭和五年・一九三〇年）は、大正から昭和にかけて浅草レビュー周辺で蠢動（しゅんどう）していた不良少年・不良少女（というよりも犯罪少年少女・虞犯（ぐはん）少年少女）の組織の生態を彼らの特徴ある言葉遣いとともに活写した異色の傑作ですが、この小説の中に「やばい」の使用例があります。

「この間お糸に紹介してくれたのはいいが、『私と歩くのはヤバイ（危い）からお止しなさい』つていふんだ。」

「ほんたうにお止しなさいまし。紅団とはわけがちがつてよ。昔はね、お糸が公園を洗髪で歩くと、血の雨が降るつていつたものよ。…」

〈赤帯会・四一〉

『浅草紅団』では、昭和五年当時の一般の読者のために、不良グループの使う隠語には（　）内にその意味を示しています。「ヤバイ（危い）」と同様に『浅草紅団』の文中で（　）付きで扱われている隠語をいくつか挙げてみましょう。これらの隠語と並べてみると、「やばい」という隠語が当時の一般社会ではどのように受け止められていたかが分かります。

「エンコ（公園）」・「ドヤ（木賃宿）」・「オカン（露宿・露宿者）」・「ハクイ（美しい）」・「ナゴコマシ（色魔）」・「ヤリカン（十銭）」・「ビタニノル（旅に出る）」・「ベシャル（しゃべる）」・「スメ（娘）」・「コマス（たぶらかす）」

仲間うちだけで使われていた隠語が、やがてその集団から外部に広まり、一般化していく例はたくさんあります。刑事（私服警官）のことを「デカ」というのは現在では広く知られたことですが、元は明治時代の刑事が「角袖（かくそで）」を着ていたことから、刑事を「デカ」と呼ぶ犯罪者集団内の隠語でした。取り締まる側の警察集団も捜査活動の関係上、犯罪者集団の隠語を自然に共有することになります。

かつては犯罪者集団の隠語であった「やばい」という言葉を現在の若い人たちが日常的に使っているというのは「知らぬが仏」のようなものです。

さて、「やばい」はその後、隠語から使用域を拡大させて一般に使われるようにもなったわけですが、それでも「危ない・危険だ」という本来の意味で使われていました。しかし、最近では若い世代の間では「ほめことば」やプラス評価を表すときにも使われています。この傾向が顕著になったのは、元号が平成になってからのような気がしますが、どうでしょうか。

「危ない」を意味する隠語「やばい」が、一般に使われるようになってから、マイナス評価での「程度の甚だしさ」の意味も表すようになり、若者の間では急速にプラス評価の「程度の甚だしさ」に意味の範囲を拡大させていきました。つまり「やばいくらい（自分が危険だと感じるくらい）良い・すばらしい」という連想です。②<u>「若者言葉」</u>は誇張した表現や程度の甚だしさを表す表現を好みますので、危ない「やばい」に飛びついたのでしょう。

古典語に「ゆゆし」という形容詞がありますが、その語源は宗教的な禁忌（タブー）の意味を表す「斎」です。「ゆゆし」は神聖なものに触れてはならないという禁忌の「斎」が形容詞化して「畏れ多い、忌みはばかられる、忌まわしい、不吉だ」という意味を表していましたが、次第に程度の甚だしさも表すようになり「たいそうである」という意味を併せもつようになりました。

源氏の君いといたううちなやみて、岩に寄りゐたまへるは、たぐひなくゆゆしき御ありさまにて、何事にも目移るまじかりけり。

（源氏の君がたいそうひどくご病気でお苦しみになって岩に寄りかかって座っていらっしゃるご様子は、このうえなく不吉な

くらいすばらしいご様子であって、何事にも目移りするはずがないのだった）

『源氏物語』「若紫」

中世以降、形容詞「ゆゆし」は「すばらしい、りっぱだ」というプラス評価をも表す形容詞になりましたが、やはり「恐ろしいほどにすばらしい」という語源に関わる微妙なニュアンスは残しています。

形容詞③「いみじ」も動詞「忌む」と関わりのある語で、「ゆゆし」と同様に「不吉なほどはなはだしい、ひどい、恐ろしい」という意味から程度の甚だしさを表すようになり、「すぐれている、すばらしい、りっぱだ」という「ほめことば」に転じました。しかし、やはり語源意識は残っていて、そこには「恐ろしいほどに〜」という畏怖の意味があります。「いみじき人なり」とは「恐ろしいほどにすぐれた人である」という称賛と畏怖とを併せもった人物評価となります。

④古典語の「ゆゆし・いみじ」などは「やばい」と似たような経緯をたどって「ほめことば」に変化していきましたが、犯罪者の隠語「やばい」と「ゆゆし・いみじ」とでは語源としての品格においては比較の対象にもなりません。

（浅川哲也『知らなかった！　日本語の歴史』に基づく）

問１　本文中の傍線部①に「『ほめことば』やプラス評価を表す」とあるが、その意味内容を述べている部分を本文中からさがし、その部分を三十字以内（記号や句読点も字数に含む）でそのまま抜き出して、解答欄に書き入れなさい。

問２　本文中の傍線部②に「『若者言葉』」とある。「若者言葉」と同列に並べられるような「位相」の違いによる「位相語」の名称を本文中からさがし、その語をそのまま抜き出して、解答欄に書き入れなさい。

問３　本文中の傍線部③に「『いみじ』も」とある。なぜ、「〜も」と表現されているのか。本文の趣旨にしたがって、説明しなさい。

問４　本文中の傍線部④に「古典語の『ゆゆし・いみじ』などは『やばい』と似たような経緯をたどって『ほめことば』に変化していきました」とある。両者に共通した変化の経緯を説明しなさい。

問５　本文中で使われている用語「隠語」とは、どういうものか。「位相語」、「集団語」との関係がわかるように、本文の趣旨にしたがって説明しなさい。

第三講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　浅川哲也＝あさかわ　てつや（一九六四〜）國學院大學大学院文学研究科博士課程修了。文学博士。首都大学東京人文社会学部教授

●川端康成＝かわばた　やすなり（一八九九〜一九七二）大阪府生まれ。東京帝国大学国文学科卒。一九六八年、ノーベル文学賞受賞。代表作、『伊豆の踊子』『浅草紅団（あさくさくれないだん）』『雪国』

語句

平板＝へいばん→単調で抑揚がない

秘密裏＝ひみつり→この「裏」は「内」や「まま」のことで、秘密の内に、秘密のままでという意味。秘密裡（り）とも書く

賭博＝とばく→金品をかけて勝負を競う遊戯。ばくち

虞犯少年＝ぐはんしょうねん→正当な保護者による監督下になく、将来犯罪にいたりそうな未成年者

知らぬが仏＝しらぬがほとけ→事実を知ればイライラするが、知らないからニコニコ仏さまのような顔をしていられる

畏怖＝いふ→おそれ敬うこと

復習問題　第三講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）相手の名前を連コする　①弧　②雇　③顧　④孤　⑤呼

（イ）肩に軽い違ワ感をおぼえる　①輪　②環　③我　④和　⑤倭

（ウ）超越神に対するイ怖の感情　①緯　②畏　③威　④違　⑤異

（エ）後半に調子が平バンになる　①板　②伴　③版　④盤　⑤晩

（オ）事件の収拾を秘密リに行う　①利　②理　③離　④里　⑤裡

（カ）映画のカン督に抜擢される　①鑑　②冠　③監　④観　⑤館

（キ）公共放送として許ヨウできない　①庸　②要　③養　④容　⑤溶

（ク）組織内でイン語が使われる　①隠　②陰　③韻　④姻　⑤員

（ケ）的確な意思のソ通を図る　①租　②疎　③訴　④素　⑤措

（コ）煩雑な手続きをカン便にする　①管　②簡　③勧　④敢　⑤間

第四講〈論説〉選択肢型　日本文化論

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

建前と本音という言い方がこの頃しきりと使われるが、この場合ややもすれば、建前は表向きのことで云わば嘘であり、本音こそ本当であるという意味合いが含まれていることが多い。したがってあることが建前に過ぎないと云えばその価値を否定したことになり、本音が出たということではじめて安心するほどである。しかしこのような傾向はもともと以前からあったとは思われない節がある。というのは言葉の由来から見て、建前本音という場合の建前と、家屋の建築で棟上げのことをいう建前とは、本来同じ言葉であったにちがいないと考えられるからである。すなわち棟上げの際は、建築主は棟梁とその手下たちに酒食を饗応するほど、これは大事な機会とされている。なお茶道で抹茶をたてる御作法のことを点前と云うのも、やはり同じ言葉なのであろう。ともかく建築でいう建前にせよ、茶道でいう点前にせよ、それが無ければ家屋も建たず茶道も行われない重要なものなのであるから、もし建前と本音という場合の建前がもともとこれと同じ言葉であるならば、それが重要でないはずはないと云うことができるのである。

実際、建前と本音という場合の建前を辞引きで引いてみると、本来的なこととして決まっている方針原則のたぐいをさすと出ている。したがってもちろん重要でなければならないはずだが、ただこれには人々が合意して決めたものという意味が入っているので、くつがえされることもあり得ることになる。「建前に過ぎない」という現代的感覚が生れたのは、恐らく A そのことが関係していると思われるのである。

そこで次に建前という言葉の実際の用法について見てみよう。例えば「本校は全寮制が建前である」「男女平等の建前を通す」「日本は建前として戦力を保持できないことになっている」などが考えられるが、その他辞書に出ている歌舞伎の台詞などを見ても、建前が取り決めによって作られるものであることは明らかだと思う。なお戦時中の座談会で木下杢太郎が次のようにのべているのを私はたまたま発見した。

「一般には科学小説といふ名前だけでは、どう云ふ立前のものかよく理解しないでせうから、第一に科学小説なるものの境界

をはっきりと付ける必要があると思ひます。」これなども建前が人々の合意によって作られることをよく示している。そして B そのように考えると、ここで云う建前が建築上の建前や茶道の点前ともともと同じである所以(ゆえん)がもっとはっきりするように思われるのである。

これを要するに建前は、常にその背後に建前において合意する集団が存在することを暗示する。これに対して本音の方は、集団に属する個人が、建前に合意はするものの、それとは別に、建前の背後で持っている思惑のことである。あるいは建前についての各自それぞれの考え方が本音であるといってもよいだろう。建前はオモテに現われているが、本音はウラに隠れている。建前があることによってはじめて本音が存在すると見ることもできるし、あるいは陰で本音が建前を操作していると見ることもできる。このように C 建前と本音は相互規定的ないし相互補完的な関係にあって、一方なくして他方が存在することはあり得ない。これは丁度建築の建前において棟を上げるのはそれ自体が目的ではなく、そこに屋根をかけ、壁を作り、床を張るためだと云える反面、他方では屋根をかけ壁を作り床を張れるのは、基礎固めが終り棟上げが出来ていればこそであるという云い方もできるのと同じ趣向である。

この点をもっと具体的な例で説明するために、報道機関が輿論(よろん)を喚起すべくキャンペーンを起こす場合を考えてみよう。このことが許されるのは言論の自由が保証されているからであって、その意味では言論の自由がマスコミの建前である。しかしある特定の報道機関がある特定の問題についてキャンペーンを起こすのは、秘かに自社の利益に都合のいいように輿論を操作したいためであるかもしれないし、あるいは担当の記者個人が昇進を願ってのことなのかもしれない。この場合このような隠れた動機をさして本音であると云うことができるのである。

誤解のないように云っておくが、以上の例で、建前は道徳的に善だが本音は悪であると云いたいのではない。また、本音は本当だが建前は口実に過ぎないと云いたいのでもない。そういう場合も少なくないかもしれないが、しかし本質的には建前と本音が［甲］的な関係にあり、一方なくして他方はないことを云いたいのである。先の例で云えば、言論の自由とはまさに各自が勝手なことを云うだろうという予想のもとに、それを言論の自由という枠の中で保証するものであり、したがって誰もが言論の自由を持っているという建前を守る限り、それぞれ自分の本音に基づいて発言してよいということなのである。

ところで建前と本音の区別は、必ずしも常に本人によって自覚されているとは限らないという点を指摘しておこう。例えば、

ある教師が自分の監督下にある一人の女子学生に親身な指導を行っているとする。この場合、学生を指導するのは教師の義務であるから、この教師の行為は教師としての建前に忠実に従った結果であると解することができる。しかし彼の言動を仔細に検討すると、実は彼がひそかに女子学生に個人的な感情を寄せていることが明らかになるかもしれない。そして彼自身もしそのことをはっきり自覚していればそれが彼の本音であるが、しかし彼自身は、自分はもっぱら教師としての義務を果しているだけであって、別に本音はないと主張することもありうる。

　同じようなことがボランティア活動に熱心な主婦についても言うことができよう。彼女はもちろん、社会奉仕の精神に目覚めてボランティア活動を行っているわけだが、しかしそれとは別に家庭的に問題があって、家事や家族から逃げ出したいために特にボランティア活動に熱心なのかもしれない。そして彼女はそのことをはっきり自分の本音として自覚していることもあり、あるいはそれが認められないでいることもある。因(ちな)みに正義の名のもとに、D個人としてはおとなしい人間が威丈高に他人を糾弾する場合は、当の本人は建前ばかりを自覚して、本音は他にないと思っていると見てまず間違いはない。およそ正義の名によって行われるものは、大は戦争から小はマスコミのキャンペーンにいたるまで、当事者によって本音が本音として認められることはほとんどないと云って過言ではないのである。

　ここで念のため今一度繰返すが、以上あげた三つの具体的例において、建前は善いが本音が悪いと云いたいのではない。また事柄の性質上、建前は表に出すもので、本音は出さないものなのだから、本音が内に隠れていること自体が悪いのでもない。ただ当の本人が自分の本音に気付かず、敢(あ)えてこれを否定することが困るのである。というのは、E本音の存在に気付かないと、これをコントロールすることができなくなり、その結果、本音が極めてグロテスクな形でのさばることになるからである。

（土居健郎(どいたけお)『表と裏』弘文堂。ただし、本文に一部省略がある。）

問1　傍線部A「そのこと」とは何か。最も適切なものを一つ選びなさい。
1　建前は本来的なこととして決定されたことである。
2　建前は決定された重要なことである。
3　建前は人々が合意して決めたことである。
4　建前はくつがえされることもある。

問2　傍線部B「そのように考えると……思われるのである」とあるが、なぜか。最も適切なものを一つ選びなさい。
1　そのことによって一つのものごとの土台や大枠が作られるという点で共通性を持つから。
2　あるものごとにおいてすべての始まりであり、端緒であるという点で最も重要であるから。
3　一つの集団が形成され、表面的な一体感がそこに生じて来るという点で共通性を持つから。
4　しっかりした概念規定を行うことと、建物を建てたりお茶を点てることは類似の行為であるから。

問3　傍線部C「建前と本音は相互規定的……一方なくして他方が存在することはあり得ない」とあるが、どういうことか。最も適切なものを一つ選びなさい。
1　建前が集団の取り決めによって形成される一方で、本音はそれを補完するものとして形成されてくる。
2　建前が合意として形成される陰には個々の人々の本音があり、本音と建前は互いに支え合っている。
3　建前が存在するのは、それ自体が大事だからではなく、それによって本音を達成するためである。
4　建前が出来るとその陰にそこから排除された個々の本音が生まれ、建前を通してそれを達成しようとする。

問4　空欄［甲］に入る語として最も適切なものを一つ選びなさい。
1　対照　2　対称　3　対比　4　相補　5　相即

問５　傍線部Ｄ「個人としては……本音は他にないと思っているとみてまず間違いはない」のはなぜか。最も適切なものを一つ選びなさい。

１　社会正義に燃える人間には、自分の利益を追求する傾向はないから。
２　他人を責める人間は、一様に自分の正義を確信しているものであるから。
３　本人が自分の隠れた動機に気付いていないからこそ、声高に主張できるから。
４　当人によって自覚されていない本音は、すでに本音とはいえないから。

問６　傍線部Ｅ「本音の存在に気付かないと……本音が極めてグロテスクな形でのさばることになる」のはなぜか。適切でないものを一つ選び、マークせよ。

１　本音に気付いていないと、その本音が当人の意識しないところで支配的になってしまうから。
２　本音に気付いていないと、その本音は建前を圧倒して、ついには本音が建前となるから。
３　本音に気付いていないと、建前の正しさを過信し、自分が完全に正しいつもりで暴走するから。
４　本音に気付いていないと、その本音が膨れ上がって、押さえがまったくきかなくなるから。

問７　本文の内容と合致するものを一つ選び、マークせよ。

１　本音とは建前の陰に隠れた本当の動機であり、気付かれないままに建前を支配している。
２　本人によって自覚されないものは本音ではないし、その場合、建前と本音の区別は存在しない。
３　建前は人々の合意によって形成されるものだが、その裏には個々の本音がはりついている。
４　建前は本音を覆い隠して、人間の悪を呼び覚まし、困った事態を引き起こすものである。

第四講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　土居健郎＝どい　たけお（一九二〇〜二〇〇九）東京生まれ。東京帝国大学医学部卒。陸軍軍医、聖路加（せいるか）国際病院精神科医長、東大医学部教授などを務めた。精神科医・精神分析学者。日本人のメンタリティの研究書である『「甘え」の構造』はベストセラーになり、その後多くの外国語にも翻訳されている

●木下杢太郎＝きのした　もくたろう（一八八五〜一九四五）静岡県生まれ。東京帝国大学医科大学卒。医者兼詩人・劇作家。文学方面で森鷗外の指導も受けている

語句

棟上げ＝むねあげ↓家を建てる時、骨組みが完成して棟木とよばれる屋根用の木材を設置すること

棟梁＝とうりょう↓大工のリーダー

饗応＝きょうおう↓ごちそうでもてなすこと

所以＝ゆえん↓物事の由来や理由

暗示＝あんじ↓はっきりとではないがそれとなく示す。対義語は「明示」

輿論＝よろん↓世間の一般市民の考え。世論（せろん）と同義で使われることもあるが、輿論はパブリックオピニオンで、世論はもっと一時的で感情的なポピュラーセンチメンツであるとして区別する考え方もある

キャンペーン↓組織的な宣伝活動

仔細・子細＝しさい↓細部までくわしいこと

もっぱら＝専ら→それればかり
威丈高・居丈高＝いたけだか→相手を押さえつけるような上から目線の態度
糾弾＝きゅうだん→相手の罪などを非難、攻撃すること
グロテスク→見ていられないほどひどく美しくない様子

復習問題　第四講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）全リョウ制の学校に入学する　①僚　②療　③瞭　④寮　⑤稜

（イ）土地のキョウ界に印をつける　①協　②競　③境　④鏡　⑤郷

（ウ）法律の条文にキ定されている　①規　②機　③喜　④企　⑤期

（エ）相互にホ完し合う関係になる　①保　②補　③舗　④穂　⑤捕

（オ）油断せず注意をカン起する　①換　②喚　③観　④韓　⑤寛

（カ）関連した文献をシ細に調べる　①仔　②孤　③詞　④司　⑤誌

（キ）業績により課長にショウ進する　①賞　②翔　③衝　④昇　⑤召

（ク）イ丈高で不遜な態度をとる　①威　②位　③異　④維　⑤遺

（ケ）公務員としてのギ務を果たす　①儀　②義　③犠　④技　⑤議

（コ）権力の横暴をキュウ弾する　①求　②及　③糾　④究　⑤窮

模範解答

第一講　模範解答

問１　・一年近い母の闘病。　・鷺草の開花時期。

問２　夫が先に立ち、妻が随った。

問３　ここ何日かの間に、老母の死に関わる辛く苦しい出来事を、息を詰めるような緊張状態の中で経験したから。

問４　昨夜母を亡くし悲しみに沈む夫に妻としての情を示すのが、その場にふさわしくないと思われたから

問５　妻へのねぎらいのようでいて、実は母との約束を果たすためであり、母の遺体を車に乗せていること。

第二講　模範解答

問1　1
問2　2
問3　4
問4　3
問5　3
問6　3
問7　2

第三講　模範解答

問１　やばいくらい（自分が危険だと感じるくらい）良い・すばらしい（二十九字）

問２　職業語

問３　「ゆゆし」と同様に本来「恐ろしい」などマイナス評価の意味であったものが「すばらしい」などプラス評価に転じつつも、語源意識は残っているから。

問４　本来は危険や不吉さを意味していたものが、程度の甚だしさを表すようになり、さらにプラス評価にまで意味が拡張されたという経緯。

問５　話し手や聴き手や場所によって異なる言語表現である位相語の一種で、集団語と同様に仲間の秘密を守り、また仲間の意思疎通を秘密裡に行うためのもの。

第四講　模範解答

問1　4
問2　1
問3　2
問4　4
問5　3
問6　2
問7　3

復習問題解答

復習問題 第一講 模範解答

（ア）③ （イ）① （ウ）② （エ）④ （オ）①
（カ）③ （キ）② （ク）① （ケ）① （コ）⑤

解答漢字一覧

（ア）幾度 （イ）不審 （ウ）依然 （エ）清楚 （オ）優雅
（カ）群落 （キ）遺体 （ク）湿地 （ケ）闘病 （コ）次第

復習問題　第二講　模範解答

（ア）⑤　（イ）③　（ウ）①　（エ）⑤　（オ）②
（カ）③　（キ）②　（ク）⑤　（ケ）④　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）楽譜　（イ）掲載　（ウ）疑問符　（エ）幼稚　（オ）鑑賞
（カ）経緯　（キ）唱歌　（ク）換骨奪胎　（ケ）継承　（コ）接触

復習問題　第三講　模範解答

（ア）⑤　（イ）④　（ウ）②　（エ）①　（オ）⑤
（カ）③　（キ）④　（ク）①　（ケ）②　（コ）②

解答漢字一覧

（ア）連呼　（イ）違和感　（ウ）畏怖　（エ）平板　（オ）秘密裡
（カ）監督　（キ）許容　（ク）隠語　（ケ）疎通　（コ）簡便

復習問題　第四講　模範解答

（ア）④　（イ）③　（ウ）①　（エ）②　（オ）②
（カ）①　（キ）④　（ク）①　（ケ）②　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）全寮制　（イ）境界　（ウ）規定　（エ）補完　（オ）喚起
（カ）仔細・子細　（キ）昇進　（ク）威丈高・居丈高　（ケ）義務　（コ）糾弾

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。